

アンケート

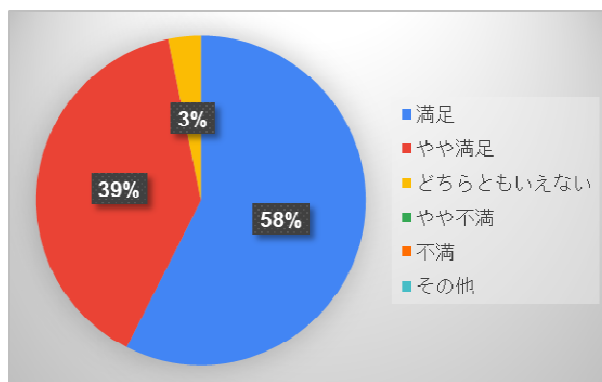
今回の参加者は、530人（※）でした。

アンケート回答数は95でした。

※登壇者、招待、報道関係、幹事、事務局を除く

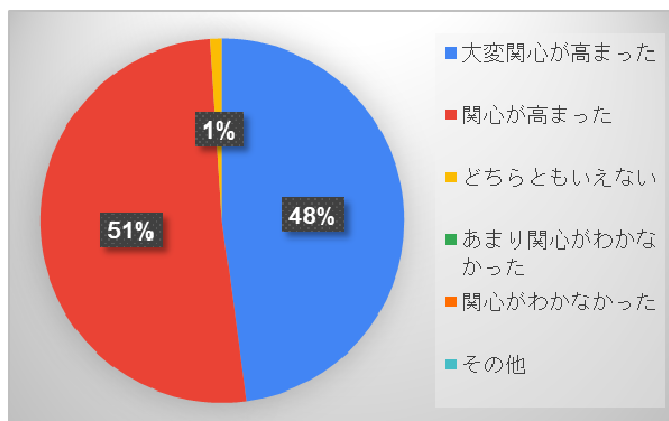
1. フォーラムの全体的な満足度

フォーラムの全体的な満足度について、「満足」が58%、「やや満足」が39%、「どちらともいえない」が3%、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、97%でした。



2. フォーラムを通じた関心度の高まり

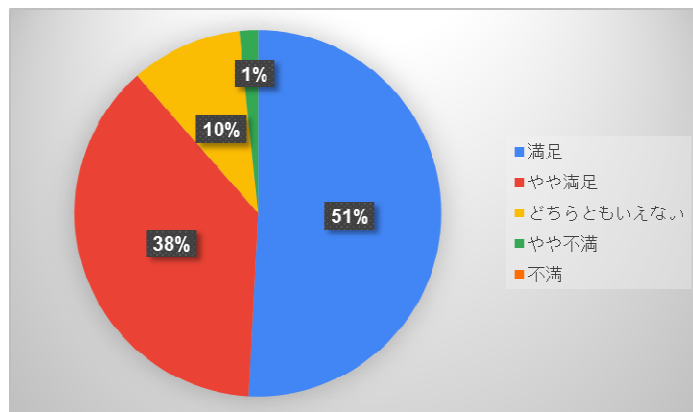
フォーラムを通じた子どもの社会的養護に関する横断的な相互交流や相互研鑽への関心が高まりについて、「大変関心が高まった」が48%、「関心が高まった」が51%、「どちらともいえない」が1%、「あまり関心がわかなかった」が1%、「関心がわかなかった」が0%でした。「大変関心が高まった」と「関心が高まった」を合わせると、99%でした。



3. 各プログラムの満足度

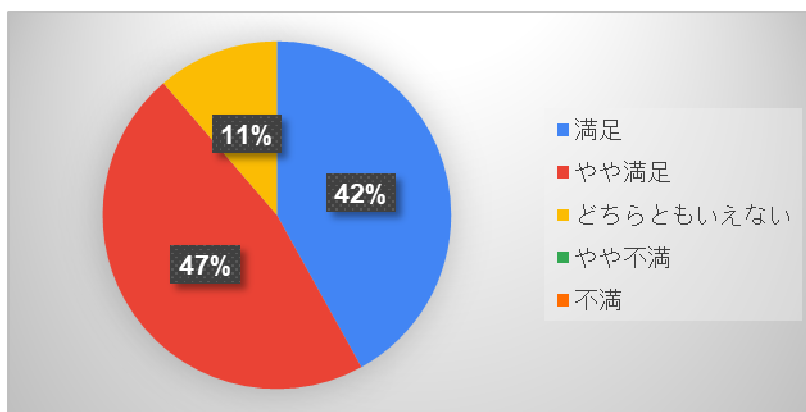
プレセッション①「人口減少地域等における児童家庭支援センターを活用した地域家庭支援」

「満足」が51%、「やや満足」が38%、「どちらともいえない」が10%、「やや不満」が2%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、89%でした。



プレセッション②「これからの社会的養育に必要な施策・実践・研究の協働」

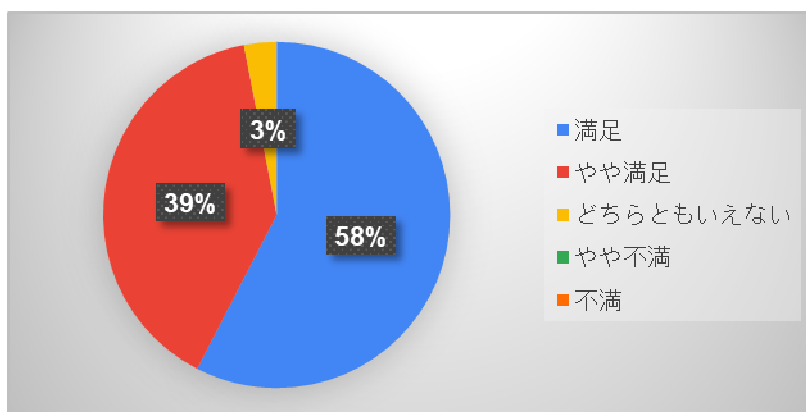
「満足」が42%、「やや満足」が47%、「どちらともいえない」が11%、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、89%でした。



アンケート

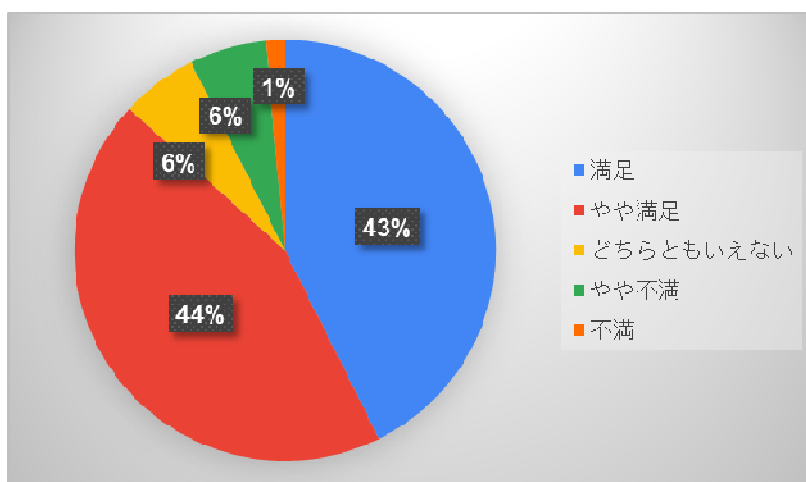
特別講演「こども家庭庁の創設とこども施策への想い」・鼎談

「満足」が58%、「やや満足」が39%、「どちらともいえない」が3%、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、97%でした。



メインシンポジウム「改正児童福祉法施行に向けた期待と課題 ～特に子ども家庭支援を担う人材の育成確保と財政措置のあり方を中心に～」

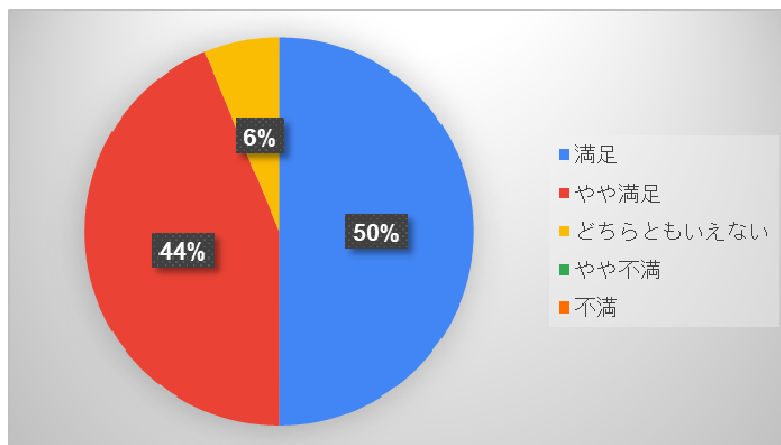
「満足」が43%、「やや満足」が44%、「どちらともいえない」が6%、「やや不満」が6%、「不満」が1%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、87%でした。



アンケート

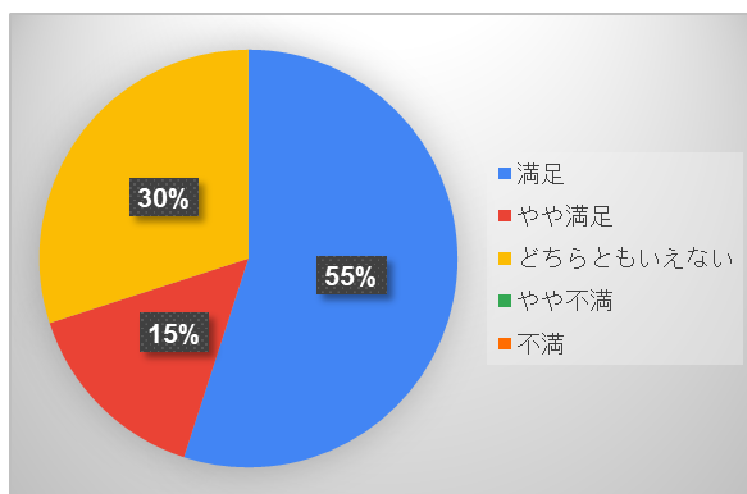
分科会1「市町村機能強化の課題と展望」：アンケート回答数 32 名

「満足」が50%（16名）、「やや満足」が44%（14名）、「どちらともいえない」が6%（2名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、94%（30名）でした。



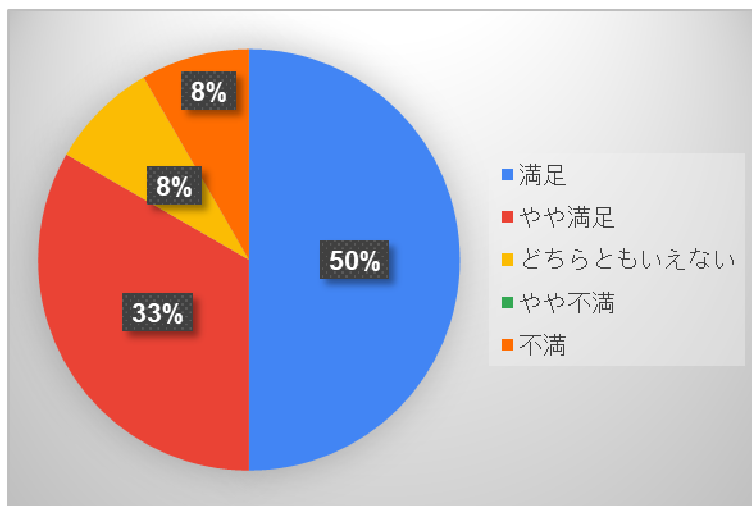
分科会2「特別養子縁組の在り方～特に学童期前半の子ども達について～」：アンケート回答数 20 名

「満足」が55%（11名）、「やや満足」が15%（3名）、「どちらともいえない」が30%（6名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、70%（14名）でした。



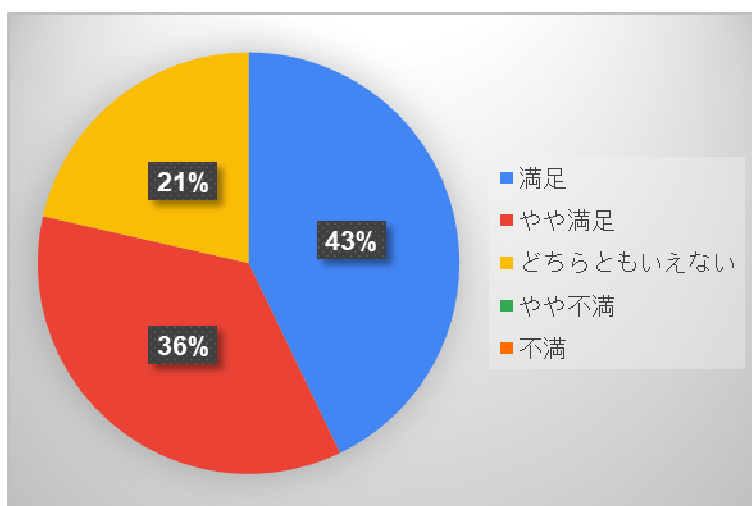
分科会3「自立支援の展望」：アンケート回答数 12 名

「満足」が50%（6名）、「やや満足」が33%（4名）、「どちらともいえない」が8%（1名）、「やや不満」が0%、「不満」が8%（1名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、83%（10名）でした。



分科会4「社会的養護におけるアドボカシー」：アンケート回答数 14 名

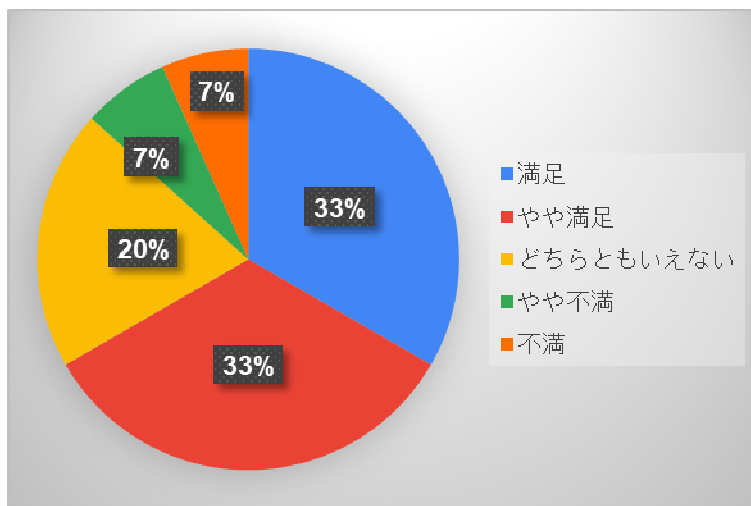
「満足」が43%（6名）、「やや満足」が39%（5名）、「どちらともいえない」が21%（3名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、82%（11名）でした。



アンケート

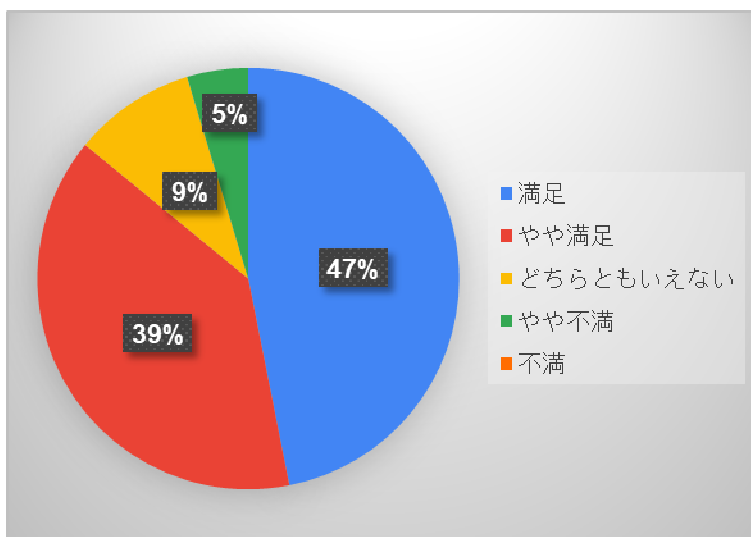
分科会5「里親とファミリーホームを増やすための方策」：アンケート回答数 15名

「満足」が33%（5名）、「やや満足」が33%（5名）、「どちらともいえない」が20%（3名）、「やや不満」が7%（1名）、「不満」が7%（1名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、66%（10名）でした。



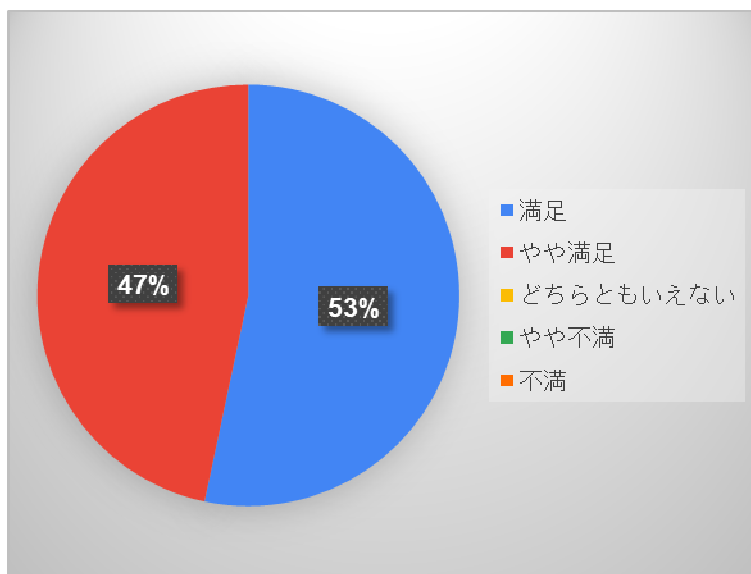
クロージングシンポジウム「社会的養護と障害児者施策の連携と協働への道 ～互いの資源を活用し合うために何が必要か～」

「満足」が47%、「やや満足」が39%、「どちらともいえない」が9%、「やや不満」が5%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、86%でした。



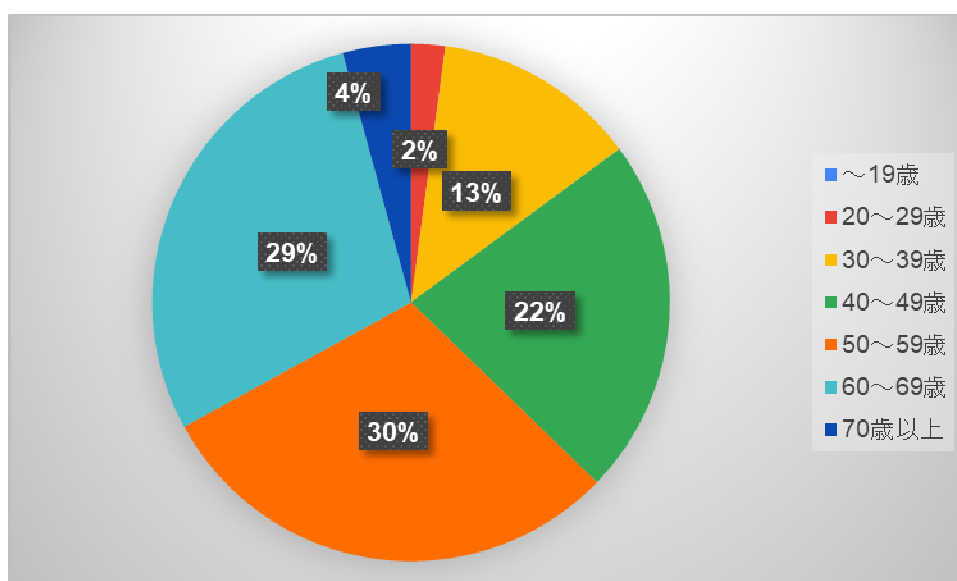
レセプション（リーガロイヤルホテル）

「満足」が53%、「やや満足」が47%、「どちらともいえない」が0%、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%でした。



4. 参加者の年齢区分

～19歳以下は0%、20～29歳は2%、30～39歳は13%、40～49歳は22%、50～59歳は30%、60～69歳は29%、70歳以上は4%でした。

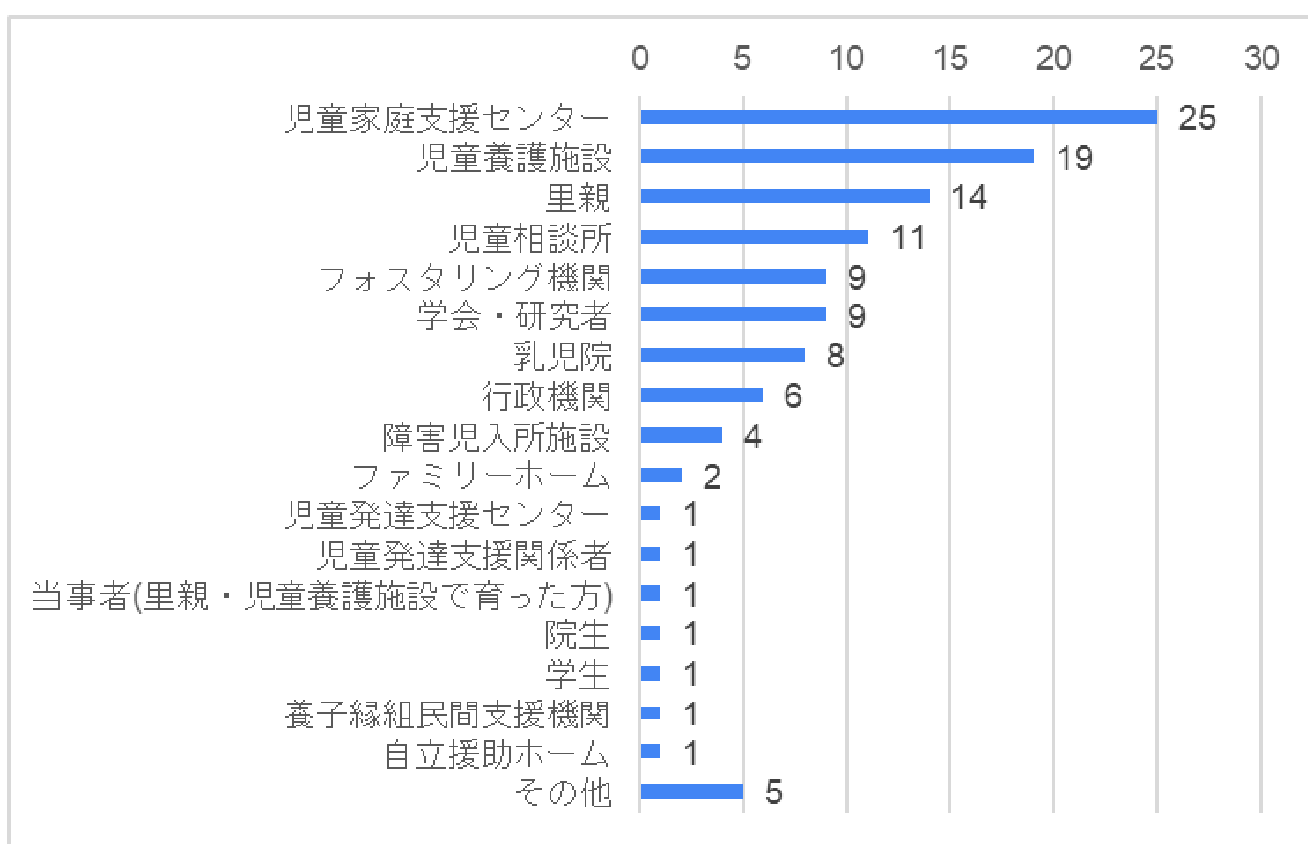


アンケート

5. 参加者の所属 ※複数回答可

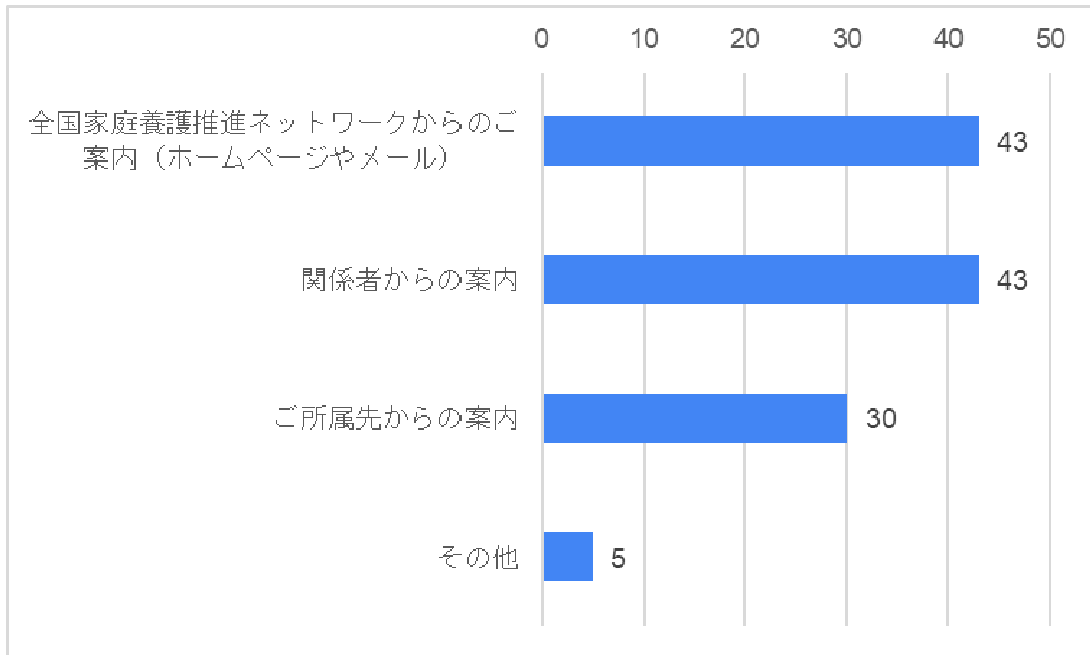
子どもの社会的養護に関わる色々な関係者にご参加いただきました。多い順に、児童家庭支援センター、児童養護施設、里親、児童相談所、フォスタリング機関、学会・研究者、乳児院、行政機関、障害児入所施設、ファミリーホームの順でした。

その他には、児童福祉助成団体、研修機関、小児科診療所における社会的養育・養護のケアが必要な家族への支援、専門学校講師、フリースクール等が含まれます。



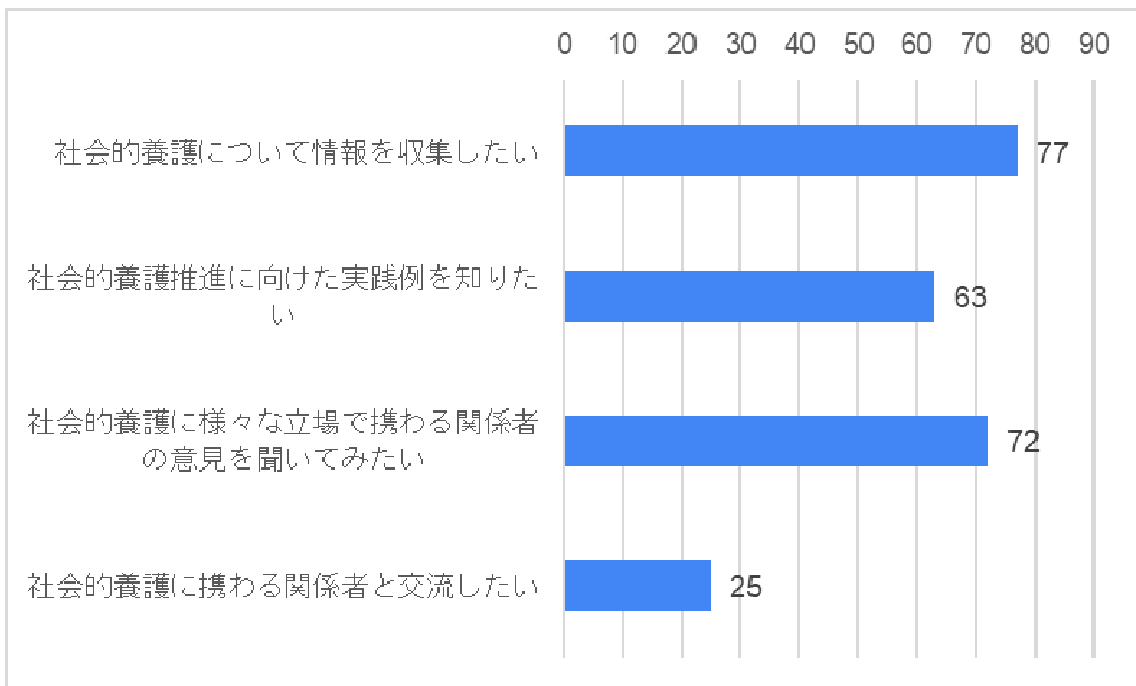
アンケート

6. フォーラムを知った経緯



※その他は、虐待防止学会 1、日本こども家庭福祉学会 1、日本社会福祉学会 1、前回出席したため 1、施設職員 1

7. 参加目的



8. 参加者の声（一部抜粋）

(1) 特に興味深かった内容

・プレセッション① 人口減少地域等における児童家庭支援センターを活用した地域家庭支援

※同様の意見複数あり

<関連するご意見>

- 児童家庭支援センターが中心となった地域との協働による支援が、それぞれの地域ニーズに合わせて動いていることがとても学びになりました。
- 児童家庭支援センターが 189 ダイアルの役割を委託され請け負っていること
- 各児家センの特徴ある活動

・プレセッション② これからの社会的養育に必要な施策・実践・研究の協働

※同様の意見複数あり

<関連するご意見>

- 福岡市の福井さんの取り組みは、未来に希望が持てる内容で興味深かったです。
- 大分県の家庭養育推進自治体モデル事業について
- 福岡市児相の里親委託に向けた、発想の転換と努力
- パーマネンシー保障に向けた実践と研究の協働

・特別講演・鼎談 こども家庭庁の創設とこども施策への想い

※同様の意見多数あり

<関連するご意見>

- 野田聖子さんの講演がとてもよかった（※同様の意見多数あり）
- 今までこども家庭庁の設立についての話は聞いてきたが、特別講演で思いを聞くことができて、こども家庭庁の設立に対する理解がより深まりました。

・メインシンポジウム 改正児童福祉法施行に向けた期待と課題

～特に子ども家庭支援を担う人材の育成確保と財政措置のあり方を中心に～

※同様の意見複数あり

<関連するご意見>

- 支える人が幸福じゃないのに良い支援ができるわけがないという言葉

アンケート

- 人材不足や育成に関して、この業界の大変さを理解した上でまずは職員を大切に楽しくできる職場づくりをする事。地域も巻き込みみんなで安心できる場を作っていく事。
- 児童養護施設出身の若い女性が、職員の姿勢に対する評価と批評をされていました。なかなか鋭いと思いました。大事な報告だと思います。
- シンポジウム内でも言及されて納得したのが、施設の文化や組織力の違いが如実に影響していることです。既存の文化を見直すことをせず、従来のをやり方を最善として子ども自身がお置き去りとなってしまうのは、施設だけの課題ではないと思いました。だからこそ、今回のようなシンポジウムなどで広めていただきたいし、私自身も気が引き締まりました
- 私自身は行政の立場ですが、現場の CW が措置費の具体的な内訳や加算事業など知らないことがほとんどではないかと感じます。多くの自治体が、CW と支払いの事務が別の課で行われていることも多いのが現状であるも要因かと思いますが、理由はそれだけではないかもしれません。行政にとっても大きな課題ではないかと感じました。

・分科会 1 市町村機能強化の課題と展望

※同様の意見複数あり

<関連するご意見>

- 市町村機能強化の課題と展望（子ども家庭総合支援拠点の取り組みが色々聞けて良かった）
- こども家庭センター設置の課題、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ
- こども家庭センターの設置・機能とサポートプランについて

・分科会 2 特別養子縁組の在り方～特に学童期前半の子ども達について～

・分科会 3 自立支援の展望

※同様の意見複数あり

<関連するご意見>

- 自立支援の施設間格差についての話題があり、いかに他の施設だけでなく、施設内の職員にも情報共有していくかが課題に感じた。
- 自立支援についての分科会に参加いたしました。元社会的養護経験者の方、現時点の支援者の方々の話が聴けたことが大変興味深かったです。支援者自身が自立支援の事業の

アンケート

ことを知らないことで社会的養護の子どもたちの道が閉ざされてしまっていること、支援者が日頃の業務の多忙さから知識を得ることが出来ていないことについて、改めてはっとする気づきでした。

・分科会4 社会的養護におけるアドボカシー

※同様の意見複数あり

<関連するご意見>

- アドボケイトのシステムづくりは、日本の児童福祉制度を充実し、より加速するために必要不可欠と思いました。私はフォスタリグ機関の職員ですが、里親こそアドボケイトが必要と感じています。
- ・やはり実際経験している子どもや孫たちの話を聞くとたいへんさがわかり聞いてくれる大人が居ないとなあとすごく思いました。たくさんの悩みのある子達や心の声を聞ける場を作り気軽に個のおばさんは聞いてくれると思えるこれからも専門里親をいかしてアドボケイトになりたいです

・クローージングシンポジウム 社会的養護と障害児者施策の連携と協働への道～互いの資源を活用し合うために何が必要か～

※同様の意見複数あり

<関連するご意見>

- 社会的養護と障害児を結び付けてくれた待望の企画でした。内容的には、登壇者も「これから」と話されていた通り、端緒に就いたばかりですが、でもまずは端緒につくことができたということが、これからの期待を抱かせてくれます。
- サービスありきや、箱モノを作ってそこに階ごとに高齢者、子ども、障害者を集めても共生社会とは言えない。やっと、もやもやしていた疑問を、司会者の野沢さんや、岩上さんなど障害分野の関係者からのコメントで納得できた。

・全体に関するご意見

- 特にと挙げられない…すべてが学びになりました。
- 分科会で色々と確認ができたことが一番の収穫でした。

アンケート

(2) 子どもの社会的養護について、特にご関心のあるテーマを教えてください。

- ・ アフターケア、自立支援 ※同様の意見多数
- ・ 人材確保と育成 ※同様の意見複数
- ・ 里親委託の推進 ※同様の意見複数
- ・ 家庭養育 ※同様の意見複数
- ・ 特別養子縁組 ※同様の意見複数
- ・ 家庭再統合 ※同様の意見複数
- ・ 実親支援 ※同様の意見複数
- ・ 子どもの権利擁護 ※同様の意見複数
- ・ 市町村の体制強化、体制整備 ※同様の意見複数
- ・ 里親支援 ※同様の意見複数
- ・ 子どものパーマネンシー保障（家庭復帰、特別養子縁組） ※同様の意見複数
- ・ 特別養子の年齢制限が上がったことに関して ※同様の意見複数
- ・ アドボケイト、アドボカシー ※同様の意見複数
- ・ 児童家庭支援センターについて（取組、先駆的事例、支援の在り方等） ※同様の意見複数
- ・ 障害がある社会的擁護の支援について ※同様の意見複数
- ・ 児童虐待
- ・ 子育て支援施策
- ・ 共働きやシングルのかたが里親として里子を受けるには、どんな支援や方法が必要か伺いたい
- ・ 障害児の里親委託の取り組み
- ・ フォスタリング機関もチーム養育を大切にしていますが、行政的な架け橋ができたとき、誰が指揮者となるのか、もしくはコーディネートしていくのかは今後気になります。
- ・ 児童相談所の人材育成
- ・ 福祉や教育と関係のない一般企業がいかに社会的養護にある子どもたちにいかなる支援を出来るか
- ・ 社会的養護に関して、理解されなかったり苦しんでいる子供が多い。加藤さんのりんごの話が面白かった。深いと思った。

アンケート

- ・ 地域を巻き込んで自分から子供達のために動いて行けるように。みんながそう考えれるようにしたい。
- ・ 20代～30代位の支援についての事例。子ども時代に社会的養護につながらなかった18才以上の若者の取り組みや、課題について、知りたい。
- ・ 里親を登録したまま委託が数年来ない方の話も聞きます。里親を増やすことももちろん必要ですが、せっかく里親になった方たちへの委託率を上げることも、すごく必要なことだと思います。
- ・ 子ども家庭庁
- ・ 里親委託の具体的な実践や里親さんに求められているものなど。
- ・ 警察や司法との連携
- ・ 国の制度政策、先駆的な取り組みや実践など現場の生の声、ケアリーバの体験談
- ・ 家族支援
- ・ 家庭支援
- ・ 障害児入所施設の在り方
- ・ 里親支援に施設内養育においても障害支援の他の専門機関との連携を深めていく事
- ・ 市町村機能強化の課題と展望、分科会、クロージング等すべてのテーマ。特に児童期中期（5～8歳あるいは10歳）までの子どもたちへのケアのあり方がその後の支援の鍵になるので、個々人の気質や発達上の特性、それまでに受けた愛着行動形成の発達への影響等を押さえた研修が必要と考える
- ・ フォスタリング業務について
- ・ 職員の配置と各専門職・機関との連携協力に方法について
- ・ 今後、市町村がすべきことについて
- ・ 里親とファミリーホームを増やすためのアクション
- ・ グレーゾーンの子の支援について。
- ・ 里親研修の改善。障害の有無に捉われない共生社会の実現。
- ・ 家族再統合に向けた児相・市町村の連携。再措置防止。
- ・ 虐待防止への地域支援
- ・ 今後のファミリーホームの在り方、展望、担い手を増やすための工夫
- ・ 社会的養護の子どもの養育の難しさ、特に発達障がいとトラウマからの愛着障がい。
- ・ 社会的擁護に至る前の子ども家族支援の予防的取り組み 里親

アンケート

- ・ 福祉型障害児施設の在り方。福祉型障害児入所施設でも、社会的養護児、被虐待児が増えています。障害のある子どもの安定した安全で安心できる生活の場をどこに求めるのか。施設なのか、それとも里親・FH なのか。新しい社会的養育ビジョンでも、おざなりにされたテーマ。障害のある子どもの生活と、障害特性に応じた療育と、整理したい。まずは障害児入所施設が実施している短期入所事業について、根本的に見直したい。もし現行通り施設が行うのであれば、帰る家のない障害児の生活の場をどこに求めていくのか、もし施設が生活の場を担うのであれば、知らない子どもが入れ代わり立ち代わり生活の場に入ってくるような状況は避けなければならない。早急に整理していく必要を感じています。
- ・ 措置児童と児童養護施設における役割、国の方針と今後の児童養護施設が担うべきこと
- ・ 里親委託を進める中で実親支援（親子支援）をどのように行っていくか
- ・ フォスタリング機関
- ・ 施設養育、在宅支援、そのはざまの部分について。
- ・ 在宅支援における児童養護施設の役割や児童養護施設ではないショートステイ拠点作り。
- ・ フォスタリングチェンジプログラムに関して、要支援家庭の保護者に対して適応可能かどうかの研究
- ・ 児童養護施設等の施設の小規模化を着実に進めるための方策について
- ・ 実際に地域支援が活用されている様々なケース
- ・ やはり心を開き話せない子供達も居ると思う病気になり仕事にも行けず引きこもりの子供達もいることをもっとしてほしい。
- ・ 社会的養護には、段階ごとにステージがあると思います。段階のステージごとの対応のあり方についてご示唆をいただきたい。
- ・ 居場所
- ・ 児童心理治療施設

(3) 改善の提案

<運営の改善>

- ・ スライドが固まったり音声が出ないなどパソコンや音響の不都合で進行が妨げられ時間ももったいなかったもので、ぜひ今後改善していただきたいです。
- ・ パワポの字が小さくて見えないものが多かった
- ・ ページ送りがきちんと出来るようリハーサルをする、限られた時間内で要点を絞って話が出来るよう、リハーサルをする
- ・ 操作の不手際や不具合を感じさせる場面が複数回ありましたので、IT 関連の各種整備やアップデートは必要ではないかと感じました。
- ・ ズーム研修での講師のマスク着用は音声に差がでてしまうように思います。ご考慮頂ければと思いました。

<時間配分、構成等>

- ・ 進行にあたり発表時間の管理をきちんとしていただき、発表だけでなく議論ができる時間にしていきたいです。あるいは発表者を減らすことで進行に余裕ができるのではないのでしょうか。最初の頃のフォーラムのほうが密度が濃い内容だったように思います。
- ・ 満足に至らなかった理由は、ひとつひとつのセッションの掘り下げが充分できず、本質的な問題とその解決に向けた方向の確認ができなかった事。参加者属性の項目に母子生活支援施設が上がってこないことに象徴されるように、まさしく家庭養育を支援する母子生活支援施設がフォーラムの視野に入れていただけていないこと、そこには母子施設側からの働きかけ不足もあると思いますが、今後の企画の中で母子福祉分野を刺激していただきたいと思います。
- ・ 内容はよいのですが、登壇者の方々一人ひとりが内容の濃い話しをされていました。登壇者をもう少し少なくして、お一人あたりの発表時間やディスカッションの時間を確保したらよいのではと感じました。助言者も1名でよいかもしれません。
- ・ パネリストやシンポジストのお話はとても魅力的で勉強になったのですが、もう少し減らしても良かったのかなと思いました。
- ・ ディスカッションの場ができたならもっと楽しいと思いました。

アンケート

- ・ 分科会は、登壇者と参加者が意見交換をしやすい工夫があると、一方的な情報交換の場ではなく、より広がりのある内容になるのでは無いでしょうか。
- ・ 一つ一つのお話をじっくり聞きたい。
- ・ 休憩をこまめに挟んで欲しい。
- ・ 時間管理を徹底して欲しい。一日目の河村さんの時間の長さは途中で司会が止めても良いと思いました。
- ・ 内容が豊富なので、時間が足りない程ですが余り時間が夜遅くまであっても、大変かなと思います。
- ・ 最終日の終了時間がもう少しだけ早ければ助かります。地方からの参加なので。
- ・ 企画した時間内にご発表いただいて、ディスカッションの時間を確保していただく方がライブセッションで何が出るか楽しみにできます。『また押してる』と思うと聴く側の集中が途切れます。先生方の思いはありがたいことですし、貴重ですが、その先の、今ここでのディスカッションができると、新しい集いの場と感じられると思います。
- ・ 皆様の持ち時間が短いところ
- ・ もう少し、ディスカッションの時間があったらよかったですのではと思いました。
- ・ スピーカーに時間が分かるよう工夫されてはどうか。初日はパネリストの発題が長すぎてさすがに疲労感がひどかった。休憩がほしい。
- ・ もう少しフロアの意見を聞く時間がほしい
- ・ とても良い内容でしたが、時間が押ししまい最後が駆け足になってしまうのがもったいなかったです。
- ・ 登壇してくださる方の熱い思いを伺いたいのですが、持ち時間は平等にできるだけ時間内をお願いしたい。
- ・ 休憩時間がもう少し間であるとありがたいです。
- ・ 間がもっと欲しい！もっと聞きたかった！

<開催方式>

- ・ 分科会はできれば同じ棟で、違うものに気軽に参加できるスタイルだと嬉しい。
- ・ 分科会は、登壇者と参加者が意見交換をしやすい工夫があると、一方的な情報交換の場ではなく、より広がりのある内容になるのでは無いでしょうか。

アンケート

- ・ 複数の分科会に出られるといい。全分科会がオンラインになると有難い。子育て中の里親は外出が限られるため。
- ・ 現地に初めて伺ったが、現地ならではの空気感是非常に刺激となるしモチベーションアップにつながるので、オンラインで見ているときよりも大変よかったが、名刺交換する慣れた雰囲気の方々のベテランの方々ばかりな印象で、新しい人も参加できる工夫があると良いなと思いました。
- ・ 全分科会をハイブリッドで行ってほしい。
- ・ 今回オンラインで参加しましたが、参加できる分科会が2つしかないため、今後工夫して欲しい。
- ・ 興味のある分科会がウェビナーで参加する事が出来なかった事が残念でした。

<内容について>

- ・ 上手くいっている所が、なぜ上手くいったか？は、多くの上手くいってない現場の声をカタチにする事で実現できると思います。
- ・ 社会的養護経験者や里親、施設や児相などの若手職員も参加できるようなプログラムもあるといい。
- ・ 今の内容で継続していただければと思います。
- ・ より具体的な話を聞けるとありがたいです。
- ・ ミクロとマクロのテーマのバランスが取れていると良いと思います。(今回がアンバランスという意味ではありません)
- ・ ソーシャルワーク的な内容も盛り込んでいただけないか

<その他>

- ・ 非常に有意義なフォーラムでした。どの分野も1年、2年で達成可能なことではなく、数年かけてやっていくことと考えると、ぜひもっと若い世代の関係者がこのフォーラムに進んで参加できるようにしていただきたいです。福祉の世界が広くつながることに意味があると感じました。
- ・ 社会的養護経験者や里親、施設や児相などの若手職員も参加できるようなプログラムもあるといい。
- ・ これからも国に提言できるようなフォーラムの開催と運営をよろしくお願いします。

(4) その他のご意見

- ・ どの発表も非常に興味深く、福祉の可能性を感じる機会でした。参加させていただきありがとうございました。
- ・ ハイブリットの開催は助かりました。今後も続けていただけるとありがたいです。
- ・ 準備、大変だったと思います。お疲れ様でした。懇親会が出来て良かったです。顔の見える関係を作って行きたいです。
- ・ とても分かりやすく、興味深い内容ばかりで、大変勉強になりました。
- ・ with コロナ。やはり対面がいいですね。ありがとうございました。
- ・ 各分科会も訪ねたかった
- ・ こども家庭庁への皆さんの熱い思いを伺うことができ、よかったと思っています。ありがとうございました。
- ・ フォーラム開催に向けて、早い時期から計画や案内をされ、また非常に丁寧に打ち合わせなどを行われ、参加者にとって有意義な内容となるように進められている努力が素晴らしいと思いました。
- ・ もう少し規模を縮小して回数をふやしていただくことを期待します
- ・ 大変有意義で刺激多い時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・ 2日目のシンポジウム等参加できなかったことが残念でした。時間は全て参加できるようにしたいです。
- ・ テーマを見させていただくとその時々大切な課題が盛り込まれていて、とても重要になります。民と官の相互リスペクトの上でのチャイルドファーストの視点に立った施策作りの重要性をさらに強調していただけたらと思います。
- ・ 幅広いテーマ、盛り沢山の内容に多くの刺激を受けました。今後の取組に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 全体的にとっても内容の深い研修で勉強になりました。メインシンポジウムにおいては、少々詰め込んだ感があり、時間配分が難しかったのではないかと感じました。登壇者の人数や時間配分等の点においては改善も必要かと感じます。ただ、内容は素晴らしかったです。
- ・ 大変勉強になりました。ハイブリッド開催だったのがとてもありがたかったです。しかしながら、会場によっては zoom での質疑が出来なかったものもあったのが残念でした。

アンケート

- ・ 全体的に研究者と実践家の方々両方の登壇により、具体的な内容が討議されていたと思います。各自治体の実施内容がわかりやすく説明されていて、興味深く拝聴させていただきました。
- ・ 様々な関係機関を横断的につなぐ試みは、とても大切なことと考えます。今後いつその発展を祈念しています。
- ・ もう少し、参加者が増えるとよい。障害児のサービスや子ども食堂をしている NPO などにも声をかければよかった。
- ・ すごく充実した3日間です。休み時間の交流なども含め、現地参加する意義を改めて感じました。
- ・ はじめての参加、登壇でしたが、長年社会的養護にかかわる支援者のみなさんをつなぐことができ勇気づけられる時間になりました。当事者の参加が少ない印象があり不安もありましたが、参加者の方々の温かい眼差しがあったおかげで、安心して参加することができました。今回のつながりから児童養護施設への訪問や職員研修のご依頼につながりましたので、つながるきっかけをいただけたことに感謝申し上げます。また次回以降も参加できたらと思います。
- ・ 分科会で質問の時間があるとありがたかったです。
- ・ 今回のフォーラムに参加させて頂き、学びを深めることができました。また参加したいです。
- ・ 大きな福祉の動向が分かり、勉強になる
- ・ 今回のクロージングシンポジウムの社会的養護と障害児施策が連携して、子ども達を支えて行く事がどの地域でも必要と感じました。
- ・ やっと対面での開催、大変有り難うございました。対面でこそ得られる出会い、学びがあり、うれしかったです。
- ・ 今回は参加させていただきありがとうございました。今後の国の動向や新しい事業、多機関の文化や意見を知り得ることができ、大変貴重な機会となりました。今後も多くの人が参加できるフォーラムの企画運営を期待いたしております。
- ・ 毎回、興味深い内容で楽しみな研修の一つです。
- ・ 内容がすばらしかったです。特別講演も興味が持てました。
- ・ 興味のある内容でしたが、時間がもう少し短いとよいかなと思いました。
- ・ とても内威容が濃く充実したプログラムを企画してくださり有難うございました。運営の皆さまお疲れ様でした。

アンケート

- ・ 広範囲な課題に対しての熱心なお取り組みに感謝申し上げます。
- ・ 是非、毎年継続して開催していただきたい。
- ・ これだけ幅広い内容のフォーラムを準備されるのは、かなり大変であったと思います。スタッフ、関係者の皆さまに心から感謝します。
- ・ 毎年楽しく参加させていただき、大変貴重な情報や考えをお聞きすることができています。

報告書

第5回 FLEC フォーラム～～家庭養護の推進と子ども子育て支援施策の包括化に向けて～

発行 一般社団法人 共生社会推進プラットフォーム

住所 〒007-0836 北海道札幌市東区北 36 条東 9 丁目 2-28

MAIL info@isephp.org